

平成 27 年 2 月の解説（週間天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、4 日にかけて発達した低気圧が北海道の東海上に停滞し、冬型の気圧配置が続きました。特に 1 日から 2 日にかけては、北海道を中心に暴風雪となり、羅臼では局地的に記録的な大雪となりました。その後 5 日と 8 日に低気圧が本州付近を通過して東日本を中心に雨や雪となりました。

中旬は、11 日から 12 日にかけて日本海を通過した低気圧が 15 日にかけて北日本の東海上で発達し、北・東日本を中心に冬型の気圧配置が強まりました。14 日から 15 日にかけて、北日本では北海道を中心に暴風雪となったほか、北陸以北の本州の山沿いでは大雪となったところがありました。その後 18 日にかけて、低気圧が本州南岸を通過し、太平洋側でも雨や雪が降ったところがありました。19 日から 20 日にかけては冬型の気圧配置となり、日本海側では北陸を中心に雪や雨となりました。

下旬は、22 日から 23 日にかけて、日本海北部を低気圧が発達しながら通過したため、南から暖気が流れ込み全国的に気温がかなり高くなり、九州北部、中国、四国、北陸の各地方では春一番となる強風が吹きました。また、本州南岸を前線が通過したため、東・西日本の太平洋側で雨となりました。24 日から 25 日にかけては、移動性高気圧が通過し、雲が多いものの晴れたところが多くなりました。26 日から 27 日にかけては、低気圧が日本付近を発達しながら通過したため、北海道では雪、それ以外の地域では全国的に雨となりました。その後、冬型の気圧配置となり、北日本では暴風雪となりました。

月平均気温は、北日本で高くなり、釧路と根室（北海道）では、2 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、西日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美で少なくなりました。名瀬（鹿児島県）と南大東島（沖縄県）では、2 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。降雪量は、全国的に少なく、北日本日本海側ではかなり少なくなりました。

【2 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より 4 ポイント高い 76%でした。各地方の適中率は、東北を除く全ての地方で例年値より高くなり、特に東海地方と四国地方で 8 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 2.0 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、特に近畿、中国、四国、九州南部の各地方で 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.9 となりました。各地方の予報誤差は、沖縄を除く全ての地方で例年値より小さくなり、特に東北地方と九州南部地方で 0.5～0.6 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は暖かい日が多くなり、短い周期で低気圧が通って天気が変わることの多い時期でもあります。屋外で活動する機会も多くなりますが、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあります。また、高気圧に覆われてよく晴れた朝には、最低気温が低くなり霜のおりることもあります。週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理や農作物の管理等にお役立てください。